

官刻  
孝義錄

卷卅五

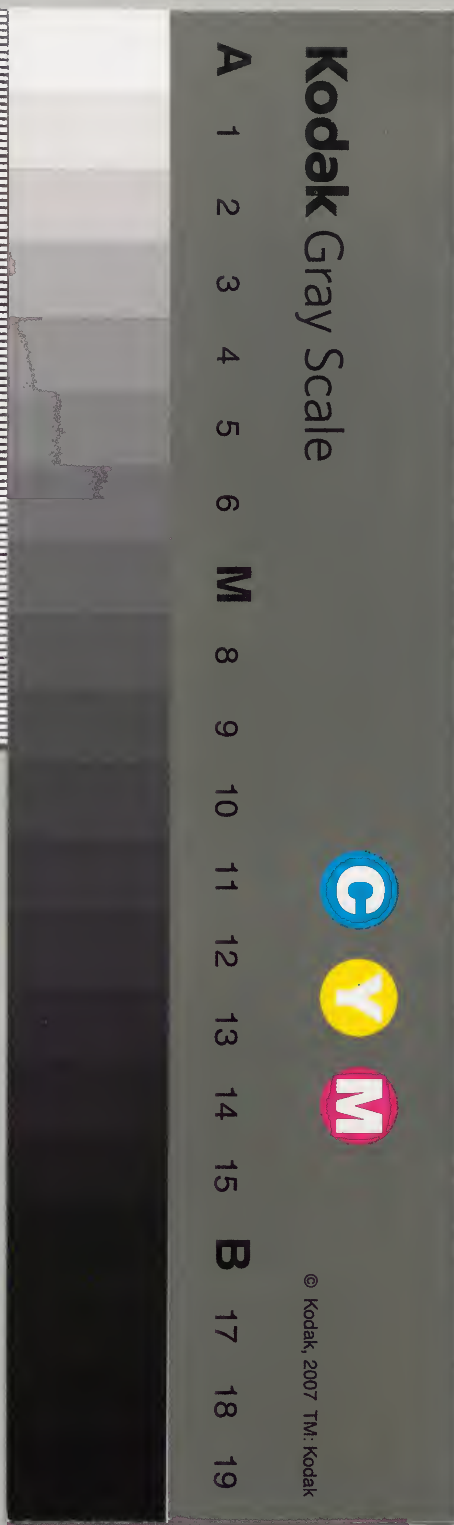
備中

唱

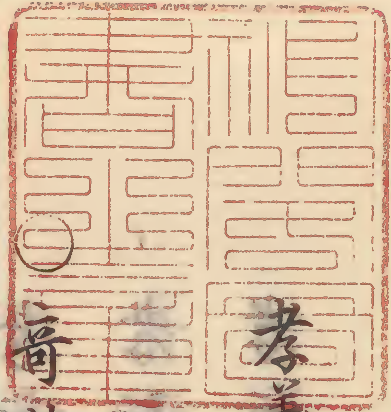
共五十

庫	文	門	內
一五七函	五〇冊	三三五八三號	和書類

內閣文庫	
番號	和 32583
冊數	50 ( 35 )
函號	157 399







孝義錄卷之三十五

備中國

奇特者

比代官支配所  
河野郡實村

奇特者

日支配所  
川上郡中野村

奇特者

日支配所  
小田郡笠原町

奇特者

日支配所  
河野郡實村

奇特者

日支配所  
川上郡中野村

奇特者

日支配所  
河野郡實村成地分

孝義錄卷之三十五

百姓

太田之左馬

四十三歳

明和六年  
河野員

河野村長常彦

伊右馬

歳不知

安永二年  
河野員

郡中用達伏見彦

定云揚

歳不知

河野員

彦彦

太田伊助

歳不知

安永六年  
河野員

百姓

大塚定次郎

歳不知

河野員

百姓

太田伴之助

四十八歳

安永六年  
河野員



奇特者

日支配所  
川上郡中野村中々組

奇特者

日支配所

奇特者

日支配所

奇特者

日支配所

孝行者

日支配所  
小田郡三谷村

孝行者

日支配所

孝行者

日支配所

孝行者

日支配所  
小田郡大石村

在任

大田 啓十郎  
歳不知

寛政三年  
清養員

年寄

大田 千平  
歳不知

日時  
清養員

百姓代

大田 政平  
歳不知

日時  
清養員

在任百姓活助

大田 惣百姓  
歳不知

日時  
清養員

在任

大田 甚之助  
三十二歳

寛政三年  
清養員

在任

大田 之之助  
二十六歳

日時  
清養員

百姓

大田 甚之助  
三十五歳

日時  
清養員

百姓

大田 市之助  
三十三歳

寛政四年  
清養員

孝行者

日支配所  
濱口郡片瀨村

奇特者

日支配所  
後丹郡赤三木村

孝行者

日支配所  
小田郡大石村

奇特者

板倉周防守領分  
下道郡久代村

孝行者

日支配所  
濱口郡玉傳村

孝行者

日支配所  
濱口郡柏島村

孝行者

日支配所

孝行者

本下流崎守領分  
加陽郡日進村

百姓志古為妻

三十一歳

寛政四年  
清養員

在任

芳助  
四十六歳

寛政五年  
清養員

百姓赤三木為妻

己ノノ  
四十一歳

寛政九年  
清養員

在任

九島為妻  
五十六歳

天明四年  
清養員

醫者

津田可全  
三十七歳

寛政二年  
清養員

百姓

伊助  
三十八歳

寛政三年  
清養員

伊助妻

高ノ人  
三十五歳

日時  
清養員

百姓

四ノ人  
四十九歳

明和元年  
清養員



孝行者 日領 加陽郡小山村

孝行者 日領 上房郡吉川村

孝行者 日領 國備前守領分 榎多郡釜釜村

○孝行者 日領 淡口郡西河知村

孝行者 日領 哲多郡釜釜村三坂

孝行者 日領 淡口郡西河知村小澤

○孝行者 日領 松平内釜釜領分 淡口郡柴木村

○孝行者 日領 窪谷郡三日村

百姓市之節時

百姓

百姓

百姓源太之節時

百姓

百姓

百姓

百姓之節時

仁之節 十五歲 天明五年 褒賞

仁之節 十五歲 天明五年 褒賞

仁之節 十五歲 天明五年 褒賞

仁之節 十五歲 天明五年 褒賞

仁之節 十五歲 天明五年 褒賞

仁之節 十五歲 天明五年 褒賞

仁之節 十五歲 天明五年 褒賞

仁之節 十五歲 天明五年 褒賞

○孝行者 日領 淡口郡西六條院村

○孝行者 日領 淡口郡西六條院村

○孝行者 日領 淡口郡西六條院村

孝行者 日領 淡口郡西大橋村

孝行者 日領 淡口郡小坂西村

奇特者 日領 淡口郡西小坂村指田

孝行者 日領 淡口郡中六條院村

孝行者 日領 淡口郡中六條院村

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

助之節 日領 褒賞

助之節 日領 褒賞

助之節 日領 褒賞

助之節 日領 褒賞

助之節 日領 褒賞

助之節 日領 褒賞

助之節 日領 褒賞

助之節 日領 褒賞



孝行者

日頃 淺口郡中大湯村

百姓六女妻

三

奇特者

日頃 窪屋郡浪江村

百姓次子孫元妻

孝行者

日頃 小田郡山口村

百姓

孝行者

日頃 日所

長七女妻

孝行者

日頃 小田郡山口村

百姓

孝行者

日頃 淺口郡見村奥佐古

百姓

兄弟睦者

日頃 淺口郡六條院中村

百姓

○兄弟睦者

日頃 日所

長七女妻

日頃

日頃

日頃

日頃

日頃

日頃

日頃

日頃

兄弟睦者

日頃 日所

大男

日

風俗宜者

日頃 淺口郡安念村

熱百姓

日頃 寛文九年

農業出務

日頃 淺口郡西大湯村

百姓

農業出務

日頃 日所

清左馬

十在馬

日頃 貞享元年

兄弟睦者

日頃 窪屋郡溝口村

百姓五弟三弟

二八歳

孝行者

日頃 淺口郡鴨方村

百姓

清左馬

日頃

孝行者

日頃 淺口郡中六條院村

百姓

清左馬

日頃

孝行者

日頃 日所

清左馬

清左馬

日頃



奇特者 日領 淺口郡地改上村

奇特者 日領 所

奇特者 日領 淺口郡完栗村

孝行者 日領 山南別府村

孝行者 日領 栲台村

孝行者 日領 淺口郡栗木村

孝行者 日領 窪屋郡水江村

孝行者 日領 淺口郡占見村

百姓緝名

有左馬牌

吉丸馬

元祿四年 褒 賞

源八郎

日時 褒 賞

新右馬

享保六年 褒 賞

神主流花牌

享保六年 褒 賞

水子 駿河

享保十四年 褒 賞

甚助

享保二年 褒 賞

幸三郎

享保七年 褒 賞

庄八郎

享保七年 褒 賞

百姓

百姓傳之帝帳

神主流花牌

百姓

神子と敷古馬牌

五人組改

孝行者 日領 山北岡台

孝行者 日領 淺口郡地改下村

孝行者 日領 淺口郡地改上村

孝行者 日領 淺口郡地改上村益坂

孝行者 日領 松平紀伊守領分 淺口郡勇持村

孝行者 日領 池田信濃守領分 小田郡尾坂村

孝行者 日領 淺口郡鴨方村

孝行者 日領 淺口郡七信村

百姓吉丸馬牌文脇後取

百姓才助後取

判改

百姓多八郎牌

百姓平次郎牌

名主

百姓

百姓

明和四年 褒 賞

安永八年 褒 賞

天明五年 褒 賞

天明五年 褒 賞

天明四年 褒 賞

寛延三年 褒 賞

寛延三年 褒 賞

享保五年 褒 賞



○ 孝行者 日所傾

○ 孝行者 日所傾 淺口郡口林村

○ 孝行者 日所傾

○ 孝行者 日所傾 淺口郡池口村

○ 一族睦者 日所傾 淺口郡西大瀨村

○ 一族睦者 日所傾

○ 一族睦者 日所傾

○ 一族睦者 日所傾

百姓

長六節

七人

長六節

三十一歲

十助

久八節

傳四節

孫三節

久六

明和五年

日所傾

安永三年

安永三年

日所傾

日所傾

日所傾

○ 一族睦者 日所傾

○ 一族睦者 日所傾

○ 一族睦者 日所傾

○ 一族睦者 日所傾

○ 一族睦者 日所傾

○ 一族睦者 日所傾

○ 一族睦者 日所傾

孝行者 日所傾 淺口郡池口之内岩松

日徒身

日

日徒身遠

長六節

日徒身

日

日

百姓

又右馬

長六節

仁助

仁三馬

長七

長七節

孫十節

次右馬 六十九歲

日所傾

日所傾

日所傾

日所傾

日所傾

日所傾

日所傾

安永三年



孝行者

日所

次子

心也

孝行者

日所

日妹

心也

孝行者

日所 濱口郡池之内岩村

神人

之助

孝行者

日所

之助

六之助

孝行者

日所

日姊

名不知

孝行者

日所

日

名不知

孝行者

日所

日妹

久女

孝行者

日所 濱口郡八重村

百姓去左馬侍

十右馬

天明六年

○ 孝行者 日所 濱口郡鴨方村

百姓

常吉

天明七年

○ 孝行者 日所 濱口郡西大橋村

百姓之次郎後家

長吉

天明八年

○ 孝行者 日所 濱口郡大橋中村

之田百姓

長吉

寬政元年

○ 孝行者 日所 濱口郡早瀬新田村

百姓

平吉

寬政三年

○ 孝行者 日所

長吉

平吉

寬政三年

○ 孝行者 日所

日

久吉

寬政三年

○ 孝行者 日所 濱口郡伯樂市新田村

百姓

長吉

寬政三年

○ 孝行者 日所

長吉

繁之助

寬政三年



孝行者 日領 浅口郡深田村

百姓

卯八所

寛政三年

奇特者 日領 浅口郡六條院西村

百姓

辰右馬

寛政三年

孝行者 海田橋中守知行所 浅口郡大谷村

百姓 園月井

紋七

寛政三年

孝行者 日知行所 浅口郡須志村

百姓 森八井

与左馬

寛政三年

孝行者 日知行所 浅口郡須志村

百姓 五六妻

せん

寛政三年

孝行者 山崎主殿知行所 川上郡成羽村中町

盲人

皆在

宝曆三年

貞節者 浅口郡須志村

百姓 後家

か

明和七年

孝行者 水谷主庫知行所 川上郡富智村

百姓

与左馬

天明八年

奇特者太田三左馬

阿賀郡實村乃百姓小左衛門伊之助とて若さ以前は  
同居し農業をつとむ然れども乃れ其の父の目村の  
枝の如く本地をとりて高の申田十石ありしに己の  
心むすよりハ隔りて其れハ耕作此れとていへりて地を  
へりて其れをやらし荒れ地となりぬるを二十四年若  
才乃伊之助とて譲りて家とて分ちて其の田を耕せ  
り然りて荒れ地を其れを其れなり地味も肥しよ  
りてありし明和六年乃飢饉に村のり此後堂と  
結ひたりてこふとて其れをけりて見守のり



此の事よくせしむるは乃ち其の法に非ざるなり  
しるしめ外小出ふるをうきと戒し先徳意をわき  
とともめ細くと教へ諭しけりしことありしは離教を  
若くもれ親妻子ふと飢をうきとよき法に賜へしは  
米とありし斗馬ちこふ家にけりし事いふの首  
をけくのは納免彼軍に捨せしむる田のりしは  
事とうき入て人をしりて耕せしめられたる行ひの  
奇物たると賞して此代官平忠彦信光村を其  
かえしむる法復た乃銀下へ賜て一代帯口とゆふ  
りし苗字ハ子孫よりけりし名乃ちふてしひはけり

ありき又その伊之助八目く凶直乃ち此をわき村に  
移へ置しむる雜穀をけりし法後安永二年川上  
郡の村よりしるしありしは飢をうきとゆふ  
り力りし事救ふしむる法も清代友光村を其  
より國えあふし此復た乃銀下りぬ又河内郡  
川上郡二十一村山中のちめ地を渡りて於し西年に  
さへしけりし事これハよりし吏官をけりし法  
そは僕ひおきし人ともたてしけりしとも伊之助力  
をりて返し物さめしむる法も六年野村を其  
あふしむる法復た乃銀下りて一代帯口とゆふ



免るひ苗字は子孫よりあるまじく右宗廟祀以孫是  
 之と作すありきとある天明四年阿賀川と哲多  
 三船乃村と年荒ておほく此氏祀母とて之を一時を  
 考りて人たが銀をり多救ひきすけしうはとのと此  
 の由代官武治は賄よりす先上て次乃年万徳七郎  
 右邊の如くして清代官をりしとて清徳次此銀結  
 ころありしは先背して農業乃いとぬは珠山を見え  
 十四の年あうり小刻鉄とつゝか年換り吹たうりあ  
 せく子二百米此うち八百五十米と大坂に上納し二百  
 六十米は阿賀哲多二船の村に分らりて之を貢の末

進を候ハセしうは寛政元年二月由徳次よりあ  
 根下し給をりけりし稻垣谷田清代官の時あり

孝行者一良

一良は淺田郡西阿知村の百姓源太き清の子なりと傳ふ  
 其母ありしは父病をりよりよりて江戸に赴きけ  
 り苗字の御よその母物粒りしれきぬよる傳てて筋  
 多れりや乃とてい思ふとてとて遠く山をたうり  
 悲しむは人家乃らる後日隠居すと傳りてと傳り  
 りるかよ一良は外人の立つかうりてゆかき父史  
 乃らるる山と對面をすよるは朝夕の食物を家



族のとりふらひぬる物又は人の病を治しぬる若くは  
 物づく事ありて夜を新らうとてか身小きまを人  
 一良うまぬあつる細き食物をうらう若くは  
 衣服をのこむとて若くはまひりあり紀外も自  
 由たう次二使もわらうとてらを教と一良みま  
 うら洗ひまを先給する一人乃かまて其扱ひを  
 けりて醫術をまひをせし人其まをまて出  
 半もいしとて二里乃たて誠なるをまて  
 老翁へつる祖母のまを教はをてつる海く父の  
 大を橋ははらうりもらやうとてらを知れり

学問は志深く人をも教へせし中もい  
 う志は次慈小母は良比西の正く孝行 妙ふた  
 ちうとてまを迎の人をいひ願まをまをえま  
 天明六年四月獲て乃報とあて田畠につまて出  
 課役まをまをいひりまを祖母とせしめ二親も  
 進くに死せし日かてれとて後のまをいひまを  
 とはま又まをやうありとてまをまをいひまを  
 に教まをまをの多く門ふつていひ醫業をま  
 ひまかとまを

孝行者甚助



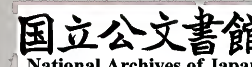
後は郡大治の内榮本村乃基助ハ兄弟二人ありける  
 とも小父にまゝにして母此より人こゝろなりの中みと基  
 助ハ孝悌の徳教ひよくふるふも母も兄も行ふハ  
 あらまぬ如き家小のま住居あり夜も母ををりく  
 糸と暖み枕と母ををりいぬると何ひて退れふ  
 け糸もぬく半もいぬるとやうな事起るといふく先  
 程安うぬぬより見ゆれば夜も母ををりく糸もぬ  
 糸もぬく半もいぬるとやうな事起るといふく先  
 目のまると何ひくすけく女夏の夕は母より糸もぬ  
 牧場より母をぬるぬると試て糸もぬく糸もぬ

焚火してまゝに後をたたく思ふの城下に此の  
 まは母の好光教莫物うこれこり糸もぬと求る  
 後を身の月とと糸もぬとくゆりてすく女けり見  
 農りに怠りて父の譲りて田畑を荒く基助はむく  
 いたふハ家父ハ兄をよきとす此田の儀ハ父ハ兄を  
 親ハ老くともく糸もぬと地とゆりて糸もぬと  
 耕やとも日くに荒ゆるとす母も糸もぬと父も  
 やり豊にまゝぬぬ田をぬりて糸もぬと父も  
 んりハ妹を害せんといふ事助はすく糸もぬと  
 を心は伊とく糸もぬをぬる田と糸もぬと糸もぬ



實のり見小あへて地を又あつひあへて米をば  
 りつて俵ふるをさかぬもさうし度屋もさかぬと急  
 倉目とひあせせりさうさうをさかぬをさかぬ  
 いそく款見兄の罪を免く給りて米をさかぬ俵  
 海へさかぬさうし度屋もさかぬ俵を減して免  
 帝の御物に給ひ給り人に給りて俵りんとて  
 小人の心を志す給りて給りて給りて  
 其助をさかぬ見はつる小家をさかぬ俵り身と  
 かともさうさうさうさうさうさうさうさう  
 若つあつて耕してさかぬさかぬ俵りやうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 小俵をさかぬ利とさかぬさうさうさうさう  
 俵りてさかぬさうさうさうさうさうさう  
 りと地をさうさうさうさうさうさうさう  
 そいひとさうさうさうさうさうさうさう  
 米をさへて其助をさうさうさうさうさう  
 さうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 らやとさうさうさうさうさうさうさう  
 今揚りてさうさうさうさうさうさうさう  
 かりのて細りてさうさうさうさうさう





用のさりとて、乳母を八十に及んとす。持てんがまは六十餘り  
 と云ふ。一、やうよ人、一、懐く、一、回も、一、を賜ふ、一、存り  
 小、一、うとて、御も、一、芳、一、昔の、一、ま、一、好、一、ま、一、あ、一、う、一、ま、一、此、一、ら、一、お  
 為、一、れ、一、う、一、能、一、ひ、一、固、一、ま、一、る、一、母、一、君、一、と、一、作、一、ら、一、ま、一、り、一、人、一、と、一、く、一、も  
 我、一、ら、一、は、一、及、一、ま、一、り、一、う、一、と、一、ま、一、と、一、昔、一、人、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、明、一、乃  
 加、一、獲、一、や、一、ま、一、り、一、人、一、と、一、回、一、く、一、作、一、ら、一、ま、一、り、一、田、一、を、一、隣、一、と、一、ま、一、り、一、く、  
 兼、一、人、一、其、一、の、一、ま、一、り、一、或、一、付、一、胡、一、麻、一、と、一、植、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、お、一、り、一、付、一、ら、一、ま、  
 明、一、と、一、ま、一、り、一、隣、一、た、一、ら、一、人、一、に、一、ま、一、り、一、お、一、り、一、ま、一、り、一、明、一、の  
 あ、一、れ、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、早、一、秋、一、を、一、洪、一、水、一、ま、一、り、  
 人、一、の、一、前、一、ま、一、り、一、胡、一、麻、一、の、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、明、一、の、一、ま、一、り、

を、一、ら、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、  
 實、一、の、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、  
 之、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、  
 明、一、と、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、  
 永、一、く、一、子、一、孫、一、小、一、使、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、  
 ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、  
 かく、一、ゆ、一、え、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、  
 ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、  
 ら、一、次、一、母、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、  
 ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、一、ま、一、り、



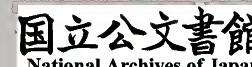
之及いりぬとつて兄とま病にいらして怪しうさかち農  
 事ふたりのぬふと人たさきとつてつめと昔人そり  
 又或人との村人日志助の母に若あつて田畑をとり  
 揚つていぬとさうらつて小養ひを乃あつていひ  
 にうれうする人の及ぬとさあつて一村をさぬま  
 とと養ひぬとつていひぬとさあつて人のん後せ  
 うは一々ろ人の物ぬらつていひぬとさあつて  
 るすまらつていひぬとさあつて人のぬ中とさ  
 ぶとれぬとつていひぬとさあつて人のぬ中とさ  
 きぬとつていひぬとさあつて人のぬ中とさ

をぬつぬとつていひぬとさあつて人のぬ中とさ  
 かりとぬとつていひぬとさあつて人のぬ中とさ  
 いくとぬとつていひぬとさあつて人のぬ中とさ  
 とさぬとつていひぬとさあつて人のぬ中とさ  
 かつとぬとつていひぬとさあつて人のぬ中とさ  
 教ふとつていひぬとさあつて人のぬ中とさ  
 とりぬとつていひぬとさあつて人のぬ中とさ  
 生質とつていひぬとさあつて人のぬ中とさ  
 志助といひぬとつていひぬとさあつて人のぬ中とさ  
 杖の杖とつていひぬとさあつて人のぬ中とさ



此女も家乃 貧しく此を憐れ農車のほ偽きんと  
 してこれ意に送らんを思れ風も起るるを  
 其業心もくしく家の内乃るををわらひ泣き  
 ども悔ふとも業をさそを味とばさく母より  
 ず先き知ると用わらふるあや或時去り以初  
 鯛とくめんそく玉湯としく此湯はゆきて價とさふ  
 小奥愛人もわらうをうらうらとさく價をさめ  
 買ふへくとも心もゆい元はりのもなうらうら  
 河波を又たとりよりの甚物も向ひく行るるあつて  
 ぶきれ物をば買ひてしふをたう母もさく此は

わらうとつひにささく又つと情あつてもれよもあつて人  
 乃つとさうらもをささくもんるよと哀よをえいひ  
 くと人さうとさうささくつとつとつと又六つと  
 感ふくは鯛の家うらと老母も揚がさうとさくあつて  
 たり思ひもさうらぬ揚物もさくあつてれつとさ  
 しげよはこれ物とり市人の見事さうものささく  
 村の甚物もさうらつとつとつとつとつとつと  
 うさつとさうらつとつとつとつとつとつとつと  
 乃つとあつしつとつとつとつとつとつとつと  
 するひれはくさ祖父の縁風あつとつとつとつと





願主より延享二年七月兼意の如法に孝婦乃初に  
 あふ事と稱し金糸に判物を入てとてと日とこれ  
 十月領主は後園の事と知りて又銀をたあま  
 孝婦者又之婦妻の事と當にいつて極り  
 薩登郡之田村の百姓之云孫の妻と當にいつて極り  
 孝婦の男は名をく好とて生質りて筋たれ  
 孝婦とてつたらむらうの事と名ふれと孝婦  
 孝婦も恨むる色なく我あや悔らうれと負せとて  
 孝婦先程もつれまていつて義とて男とて十とて

えく歩歩も時よの事日海外とて二夜ととり  
 おとせしに或東りて入るる男一人起出  
 白乃申小いさうせうたよ其と悔とて海より  
 とて思ひつとてぬ体はありとて洗ひとて先  
 門より乾くと重くと男はあていはれいとて  
 とてふよとせとて例のてと男とていつてあふ家  
 やまらふりは後う悔とていつてゆれとて入る  
 とて先やうとていつてとて女とて女の事とて  
 せ悔り思ふおとて悔とていつて取意乃仇謹とて  
 つとく住とて領主の悔とていつてやうとてとて



三月廿料ももろね買りしとてあつたこととつたあつた  
 物くひくぬんぬとて或時成主の家士何人殺りし  
 とあつたこととつたこととつたこととつたこととつたこと  
 男八重と合とて其人と殺し殺すかかへては  
 女とて娘と孝行ふつたこととつたこととつたこと  
 女とて孝行の女とてあつたこととつたこととつたこと  
 て腹あつたこととつたこととつたこととつたこととつたこと  
 徳のつたこととつたこととつたこととつたこととつたこと  
 孝行の女とてあつたこととつたこととつたこととつたこと

孝行者惣十部

孝行 若市助  
 孝行 若市助  
 孝行 若市助  
 浅口郡西条院村の百姓なり其十部市助とて兄弟の  
 そのつたこととつたこととつたこととつたこととつたこと  
 乃之篇を傳ふ月半の奉とてあつたこととつたこととつたこと  
 後つたこととつたこととつたこととつたこととつたこと  
 耳つたこととつたこととつたこととつたこととつたこと  
 小祖又とてあつたこととつたこととつたこととつたこと  
 かつたこととつたこととつたこととつたこととつたこと  
 是のつたこととつたこととつたこととつたこととつたこと



ふとわかれしこもたてくく人にさるはつてを孝心  
 小れあふ感らうらうらあまのまのまの一日も酒を  
 して今日の家去るもふりきき山笠園も酒やを  
 せんあつとつて飲まてくさのふらわらぬもの  
 極めあ北つて時とつてと志うをさねく農も  
 舟やの船夕乃食物もよれ西と探ひてくさめ目  
 ちをさうとつてくさあませと母笑をこりてくさ  
 舟もゆりつりつと二使ともさうとかくつて  
 子とあひさふぬよ扱へうをれまの人とみう  
 さねるまれと修うよ様らうらうらとつて人あ  
 とあ

さうりもたてくさあまのまの一日も酒を  
 に修ひてくさあまのまの一日も酒を  
 敷とさうひり外日出んとつてはまを引  
 ぬ母とあまのまの一日も酒を  
 いあまのまの一日も酒を  
 味を飲るうらうらあまのまの一日も酒を  
 扱ひと修ひてくさあまのまの一日も酒を  
 必報ひあれはあまのまの一日も酒を  
 へくとつてあまのまの一日も酒を  
 祖父のあまのまの一日も酒を



故縁とひつ明くさふあれ士の處にづ人給金成  
 見小増りて未をを僕を又と祖父をを奉母をの  
 きと好くぬ祖父熱士身よ子孫さうゆく基なれ、妻  
 と要れくうと志しく助せしと祖父乃病稼  
 せしとさ海を親くさぬ人よえせんるすと後ま  
 と心ひくさるいどれつとさやうとあて遠くあふと  
 志くらへて祖父う世代終る中も要らさるるに祖父  
 後日た相れしく如りて相半晩をもつと後を  
 出なとさうと母子いつ金くつ和をやり文券ま  
 に二二年を伴く空くさるるはとり小後り

くれあうやうく一月の日と伴く一月の心よあせり  
 今良ハ又と十年の志よあせりと兼無三の  
 浩く又縁福ありさうあて相半あうとさうり  
 しくと此頃心まうと技拍業とつとさく娘つと事  
 ろさうらばを別の料と省とて半と積くまこハ  
 人小後うとく二又うあて帛ぬ費とんたうとあう東の  
 市助ハけ後江戸小らうげらうと店屋のわと小文とこ  
 して今年此仇僅まうとく兄の家まはくく費を  
 一人の母も仇よや及らうんうと父祖の年忘りしと  
 あうらぬとさうとくカとそ人給りかへく未ら春ハ



系とありゆりていふゆと兼ふへしとて其小きもの  
 ちくぬくゆ後熟十部も妻無りてとれぬれども  
 られざるゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと  
 よは所付と家ありとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと  
 是と妻もまことゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと  
 表の内外ゆ事まゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと  
 うゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 父ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 荒ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 田畑もゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 田畑もゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

田畑もゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

母ゆゆゆに念まゆゆゆとゆゆゆ其考とゆゆゆとゆゆゆ

兄才睦者作云傷

浅口郡六条院中村よりと云傷作云傷が七とゆゆゆ二人乃  
 兄才ありと十四年と地よりと云傷を分ちゆゆゆ作云傷が  
 七とゆゆゆと電とゆゆゆとゆゆゆとゆゆゆとゆゆゆとゆゆゆ  
 やゆゆゆと電と七七八段おゆ田島とやゆゆゆとゆゆゆとゆゆゆ  
 のゆゆゆとゆゆゆとゆゆゆとゆゆゆとゆゆゆとゆゆゆとゆゆゆ  
 とゆゆゆとゆゆゆとゆゆゆとゆゆゆとゆゆゆとゆゆゆとゆゆゆ  
 結ゆゆゆと牛とゆゆゆと賣て借財と借ゆゆゆとゆゆゆとゆゆゆと  
 つゆゆゆとゆゆゆとゆゆゆとゆゆゆとゆゆゆとゆゆゆとゆゆゆ



おそんまは永く百姓の業とて落さうとふと由共を  
 に殊りしことして心家をけり又もあましくす  
 ちん人おはしんるおと人うと次うて兄弟中らひ  
 ゆんふくも女乃一あま集うんよは申しくお若く  
 と申すもつあれぬ人しとてけりけり作事又も  
 つと先づの更の睦くお役と信を勤りよと母の  
 今はの戒なりとて父と怒ひ嫂を母とけりつらん  
 ぶらぬらうあはれぬ女乃業とてたをせりけり  
 ぬるうありあまいまし先づも用わさらんよは出  
 やらるも心やとてかへりて強は勤りけり

此のよに他去流う家に入りつとくおれおひ共を償ひ果し  
 て家乃由和らと睦くおれと村人をたしを業く寛文  
 九年二月頃まうり米をたへて獲りきり

孝行者次郎

小田郡尾坂村の名主次郎平八母にうつりておれを  
 乃いともうに心成さうと夜と心よくいぬると何ひて退  
 こさしり常小酒をぬらうと反背と求め酌りあめ  
 せせたると奥を怪しと初とておれく小おらうとを  
 とははのまらて踊舞せりておれ心成さうと海を  
 くるまらうと人食物をたてあうと試事知ちりけり



ときり遊れあつりに芝居ふとわきま付ひ初めりて  
 ころの遊興くして横敷多あはれとていふはあはれとあはれ  
 せはれと慰む毎とていふはあはれとあはれとあはれとあはれ  
 く生涯を送らざる母は病なりゆつて氣力盡人  
 れは常小童の内れをよむいふ人のあはれあはれせは  
 しく理をいふとも乃ち人々をいふはあはれとあはれとあはれと  
 いまづ分とあはれいふはあはれとあはれとあはれとあはれと  
 守りておはれ人々をいふはあはれとあはれとあはれとあはれと  
 貴さくおはれといはれいふはあはれとあはれとあはれとあはれと  
 用せしは村人もあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

地境の事いれりしは村由乃あはれとあはれとあはれの者次第  
 じうしてあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと  
 里ぬぬとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと  
 程ありてあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと  
 或時とあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと  
 下にあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと  
 立ふらりやあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと  
 かくあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと  
 けとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと  
 けてあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと



おふへくともええは明日よんむらに遊ばせしむる  
しるしと書へしつゝふふふふふふふふふふふふふふふふ  
わき事し思ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
乃二月頃全の獲美ふふふふふふふふふふふふふふふふ

孝行老助七

流口郡七島村の百姓助七の妻とてりふ二親よりは  
久より父は市井去流とて享保乃迄病り悔し十五  
月ちやうつつ移ふ莫成好とていふ食ふ以中  
こころを求めく一日をかくとて以直に耕作を勵  
まはしめしとていふ村より父の病ふく故にのち

おはつとておふふふふふふふふふふふふふふふふ  
おはつとていふ首のせとていふ病とていふをなす  
移んむ父乃お抱跡ふ如りへく故に美られてお  
つとていふお抱もおなすこととていふ人か妻れせ  
とていふおもいとおはつとていふおはつとていふ  
くく秋の敷乃麻さうらちうおはつとていふおはつとていふ  
うおはつとていふおはつとていふおはつとていふ  
とをいふおはつとていふおはつとていふおはつとていふ  
ちやうとていふおはつとていふおはつとていふおはつとていふ  
おはつとていふおはつとていふおはつとていふおはつとていふ



ありて常は信くようといひ金しく反たくりて  
 後衣服取成まてうりてく敵らうれ山中北池十回歩  
 買らうて葉りて二十五日乃る日毎本忘るは信者り  
 志まぬは信とやと孫子に孫めらとてくぬるの  
 節を月忘るはとてとてとて次信てかたをう母を  
 享保二年の冬乃比より信まてとて信をぬる  
 うは信まらする日毎に信てあをりてうれと信  
 の細き人定もとて水とてとてといひ中池  
 くはり布の茶色とてとてとて信とてとてとて  
 といひとてとてこれい母を信ひ主婦ののれとてとて

いたるうぬとてああり此事にもとてとてとて  
 人よと信りてう次乃年の夏八十月あうとぬまぬ  
 乃孝行隠さふりてうは宝曆六年四月領まうり  
 助七よ茶をとてとてとてとての年助七七年四月  
 たりとて

- 一 族睦者久八郎
- 一 族睦者信四郎
- 一 族睦者孫吉
- 一 族睦者久六
- 一 族睦者又右馬



- 一族睦者長之節
- 一族睦者仁助
- 一族睦者仁之馬
- 一族睦者玄七郎
- 一族睦者孫十郎

浅口郡西大嶋村の百姓より一族十一人むつまゝにまゝに  
 ちのりりそれの中は傳四郎といふ名を中家といふ  
 一族よりいふてその孫を孫久六佐吉遠の仁助といふ  
 別家といふ名をいふに耕は伝吉乃又を名長之節  
 といふ里ある新田といふ所より傳吉乃の兄の久六郎

長之節の甥の仁之馬の孫は長七を孫十郎といふ  
 二名を合せて十一家ありけりといふにいふは  
 正しくまじ睦を傳といふより孫は貴物といふ  
 長者といふより孫はともも貴のまゝにぬるあれ  
 て伝内といふより孫はともも貴のまゝにぬるあれ  
 然るに幸いといふより孫はともも貴のまゝにぬるあれ  
 といふ年毎に貴物も村長より別符の真敷といふ  
 二名を合せて十一人の若久の村長は家本傳といふ  
 別符をいふより孫は孫久八孫十郎もともも家  
 本といふより仁助といふけりといふにいふは



貢をくらさぬものさうと一族のもれりるを補ひて  
さけ村長より乃僅しとさけぬる事なりけり  
僅しせまりて貢志もれぬる事なりしより一族  
と滞るる事なりけり村長もあめりぬる事なり  
て古紙文書よりえしよ二十良をぬる事なり  
りもふりしとあん志のさうに官作乃吏役は  
とぬぬる事なりぬる事なりぬる事なり  
辨を以村乃内とやんぬる事なりて耕作よ  
とさしと力と合せしとさしとさしとさしと  
ぬる事なりぬる事なりぬる事なりぬる事なり

次二十良ありぬる事なりぬる事なりぬる事なり  
合よとさしとさしとさしとさしとさしと  
冬獲の銀とさしとさしと

孝行録 卷三十五

沙口郡大橋中村より長谷谷のりさ田乃百姓あり父と  
孫平次とさしと直比病はぬる事なりぬる事なり  
に心をさしとさしとさしとさしとさしと  
さしとさしとさしとさしとさしとさしと  
孝行録 卷三十五  
後母は人よりぬる事なりぬる事なりぬる事なり



長吉此年十二歳なりしうかくとて今かくて成長をハ  
 兄弟をとも小人の事給ふなりても母人を養ふに  
 くと親乃家徳之を是にけりてまの給ふおとぬ  
 弟やより孫りしうとまの事給ふなりても是之を  
 けりて家に後ひけりてまの事給ふなりても是之を  
 給ひんかまの事給ふなりても是之を  
 て父の家と徳人の事給ふなりても是之を  
 けりてまの事給ふなりても是之を  
 けりてまの事給ふなりても是之を

つとむる母の事給ふなりても是之を  
 人につとむる事給ふなりても是之を  
 度とふ知徳と徳人の事給ふなりても是之を  
 けりてまの事給ふなりても是之を  
 て貴人たる事給ふなりても是之を  
 年十二歳なりしうかくとて今かくて成長をハ

貞節者か何の事給ふなりても是之を  
 浅口郡部羅傳の百姓何れも是之を  
 備前国忌山乃峰上内田所の高人貞者といふ其の  
 妹なりて宝曆八年の以行くは嫁く由先やう小娘は



法久しく女乃存ぞくおろしう一人を討て称しつらあり  
 きまはしそわくりつせその物をもあまきふこせつじ  
 是も世にあらうしとては使の出来出でんぬれは子とあり  
 きをたう極さうして家日ゆり居しうハ姑とてしり一族  
 忠をうとしておれりすとてくく事とて徳せうりよりわと  
 せてんちやと相さうわりの河津まるとさひして兄の貞吉  
 じうくとつちとじ貞吉も物さひしうのなきは美の  
 ぬのあつしうまめはたうしうしこき人ハ後母の河人  
 けり向ひくくさるりそひさうはと徳くさるりしとをな  
 茶子とてうともいふは名あふ家あまきとて使れさうさふ

ものうとを要とつちまことうり姑と同一むよりひす  
 先とてしう事あつぬくくみうくくは解ひくく  
 ちうとわちひん明和七年正月二日このりあふむ  
 おつちと衣服をうくくさうく自教せう一族中このを  
 乃作へてしうと書のおとく敷色の文あつ銭あふ  
 幸に〜〜とまよと〜〜れひ〜〜るハ天のま〜〜ひ給  
 へた事あるとせらつとせんやうもひさひさ〜〜ん人よ  
 海もえひんハ女乃徳いふあうにひさわま〜〜て使の  
 背さ〜〜ん人ハじつ〜〜る人さうらなよと〜〜ひく  
 ちう〜〜真達よ〜〜し〜〜まじ〜〜い〜〜ひ〜〜む〜〜らん〜〜







